

受難節第3主日礼拝 説教「わたしの救い主」要約

マルコによる福音書 第8章27節～33節

日本キリスト教団茅ヶ崎堤伝道所 2022年3月20日

① ペトロ、信仰を言い表す

さあいよいよ、ここからマルコによる福音書の後半部分に入ります。ペトロが信仰を言い表すこの箇所(29)は、マタイによる福音書とルカによる福音書にも書かれていますから、それだけ重要だと言えます。そしてこれ以降、イエス様がご自分についてハッキリと語られるようになりますので分岐点とも言えます。弟子たちと出かけたフィリポ・カイサリア地方で、イエス様は弟子たちに尋ねます。「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」(27)。弟子たちは当時のユダヤの人たちが最も尊敬していた「洗礼者ヨハネ」「エリヤ」の名をあげて答えています。イエス様は更に質問します。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」(29)。弟子たちを代表してペトロが答えます。「あなたは、メシアです」(同)と。メシアは元々「油注がれた者」の意で、王や祭司、預言者など神から特別な務めを任じられ、それを果たすための力を与えられた者の意味です。ペトロは「本物のメシアであり救い主(キリスト)です」という信仰を言い表したのです。

② イエス、死と復活を予告する

イエス様は仰いました。「わたしは殺されるが、三日後に復活することになっている」と。ペトロはこれを聞いてビックリ仰天！救い主であるイエス様が殺されることなど、あってはならないと思った彼はイエス様をわきへお連れして、いさめます。イエス様は振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロに「サタン、引き下がれ」(33)と仰いました。十字架と復活は神様のご意志を実現するために必ず果たされるべきことなのだとと言われても、弟子たちには理解できなかったのです。ただ、イエス様の「引き下がれ」とは、排除の意味ではなく、「わたしのうしろに引き下がちなさい」の意味です。イエス様に対して一度合格すれば合格ではなく、イエス様に対する私たちの立ち位置を繰り返しこの告白によって求められるのです。イエス様はペトロに仰いました。「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」(33)と。神様のご計画は不思議です。神様は人間を赦すために、イエス様を十字架に付けられたのです。十字架のイエス様こそ救い主です。

③ わたしの救い主

聖書には、神様のことやいろんなことを知っていても、イエス様のことを正しく言い当てることのできない人がたくさん出てきます。そうすると、ペトロがイエス様のことを正しく言い当てたことはとても不思議ですよ。後に伝道者パウロがコリントの教会に宛てて書いた手紙の中に「また、聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです」(1コリント 12:3)とありますから、ペトロが「あなたはメシア(救い主)です」とハッキリと言えたということは、そこに、聖霊(神様の力)が働いたということです。聖書がいつでも願っているのは、イエス様というお方を、「わたしの主イエス・キリストです」と信じてほしいということです。私たちが元気な時も、そうでない時も「イエス様がわたしの本当の救い主です、キリストです」と言い表すことです。さて、イエス様のことを見事に言い当てたペトロでしたが、その後、大失敗をしてしまいました。でもイエス様はペトロを突き放したりなさいませんでした。「わたしの後ろに来てごらん、そうすれば、わたしが言っていること、しようとしていることが分かるよ」と招いて下さいました。だから大丈夫！私たちは安心して、何度でもイエス様の招きの言葉を聞きましょう！